



10年後20年後も村上市で暮らしていくために 今、私たちにできること

～互近所させさえる隊の活動から～

私たちの生活の中にある課題を解

決していくためには、「4つの助」の連携が必要です。このうち最も重要なのは、一人一人が自分の生活を豊かにするために努力する「自助」と、それを支える「互助」です。

個人や地域で解決できない課題には、「共助」や「公助」など行政や公

的機関などの各種サービスを活用しますが、あくまでも補完的な役割であり、「自助」と「互助」の基盤は、安心して暮らせる地域づくりを進める上で不可欠です。そのためには、普段から顔の見える、なんでも相談でき

る関係づくりが大切です。

10年20年先を見据えた「互近所させさえる隊」の活動は、「今困っていない」人には「我がごと」として考えにくいことですが、元氣な今だからこそ、将来の暮らしが心豊かなものになる方法を考えることができます。

高齢者も含めた全世代の人々が、支える側になったりしながら、支えられる側になったりしながら、暮らしやすい地域を造っていくためには何から始めればよいかを一緒に考えませんか。

・歩いて買物に行けるよう下肢筋力を鍛える。
・普段から家族や近隣と積極的に良い関係をつくる。など

・ゴミ出しや除雪、不審者の出入りなど、近所で声をかけあう。
・買物に困ったら、家族や近所にお願ひできる。など

自助：
自分で自分を助けること

互助：
家族や近所どうしで支えあうこと

共助：
医療や年金、介護保険など被保険者による相互扶助のしくみ

公助：
行政機関など公の負担で支えあうしくみ



●問い合わせ

介護高齢課地域包括支援センター
☎53-2111 (内線3432)



▲ 郷土のもち料理はどれも子どもに大人気



▲ 地域一斉クリーン作戦の様子

子どもも大人もみんなが参加。クリーン作戦が根付いた自慢のふるさと

●問い合わせ
朝日支所地域振興課自治振興室
☎72・6880-1

たかねまちづくり協議会では、地域の個性や魅力を生かし、全ての人が「ここに住み続けたい」「ここに住んで良かった」と実感できるまちづくりを進めています。

お寺の修行体験も合わせた集落まちあるきや、小学校での郷土特有もち料理のふるまいなど、自慢の事業はいくつもあります。特に地域に根付いているのは「地域一斉クリーン作戦」です。子どもからお年寄りまで、早朝から地域に落ちているゴミを一生懸命集める姿には郷土愛があふれています。沿道に捨てられてしまうゴミをどのように減らすかといった活発な意見も出て、地域の自主性も高まっており、今後も継続していかなければならない事業だと感じています。

子ども達にとつての自慢の地域、大人達にとつての愛着のある地域を目指して、今後ますますまな事業に取り組んでいきます。



まちづくり協議会通信
No.8
～たかねまちづくり協議会～



市HP関連ページ